

「道の駅あおき」と「五島慶太未来創造館」

総務産業常任委員会



「道の駅あおき」にて

5月12日（木）、総務産業常任委員会は、青木村の「五島慶太未来創造館」と「道の駅あおき」を視察した。

五島慶太は、明治15年、青木村で生まれ、20歳まで過ごし、その後東急グループを築いた実業家であるとともに、教育者として次世代の育成にも力を注いだ人でもあった。「五島慶太未来創造館」は、彼の軌跡を振り返るとともに、小さな村から実業界に大きく羽ばたいた先人の想いを、これからの時代を生きる人々に繋げていくための施設で

あり、五島慶太の功績や建学精神などが詳細に理解できる展示や館長からの説明に、大変感銘を覚えた。

「道の駅あおき」は、村の農業・観光の振興、移住・交流の促進、情報発信の基地として中心的な施設である。農産物直売所では、地域で生産された農産物を中心に、タチアカネ蕎麦や地元で採れた松茸の特産品として販売しており、隣接して「食堂こまゆみ」や「ふるさと公園あおき」「多目的体験学習館」などが整備され、子どもから大人まで楽しめるエリアになっている。

施設では、年間を通して、青木村と（株）道の駅あおきが協働し、総力をあげて、様々なイベントや取り組みが行われており、成果が上がってきていることが感じられた。こうした活動を私たちも着眼していく必要がある。

（朝倉 国勝）

ごみ焼却処理施設

社会文教常任委員会



1回に1tのごみを投入

社会文教常任委員会は5月18日（水）に、長野広域連合が新たに建設をした千曲市屋代にある「ちくま環境エネルギーセンター」と当町にある「葛尾組合ごみ処理施設」の視察を行った。

ちくま環境エネルギーセンターは、当町と千曲市、長野市の南部（篠ノ井・松代）の可燃ごみの処理を行っている。

本施設での一日の焼却処理能力は、約100tとなり、現在日量で約80tコンスタントに焼却が行われている。当町からは一日の収集で約20tの

搬入がある。最大で700t保管可能なピットがあり、万一の災害発生時に出るごみにも対応が可能。

また、施設敷地内には焼却により発生する熱を利用した千曲市余熱利用施設「リ・スパ シンコーズポーツ」が併設され、入浴施設やトレーニングジムが整備されている。

地域の住民に利用してもらいたいとのことであった。

次に昨年10月、長きにわたる稼働を終えた葛尾組合ごみ処理施設を視察した。

今後の課題として一番に挙げられるのが施設の後利用である。組合職員からは現在千曲市にある「不燃ごみ処理施設」を移設する予定と説明があった。本年度より地元で説明・取り壊し・建設を行い、令和9年度稼働予定とのことである。

循環型社会に向けて環境に配慮した施設建設を期待する。

（大日向 進也）